

報告事項ウ

商工会議所との意見交換会の概要について

米子商工会議所及び鳥取商工会議所青年部との意見交換会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成19年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

## 米子商工会議所との意見交換会の概要について

教育総務課

- 1 日 時 平成19年5月22日(火)午後2時～午後3時30分
- 2 場 所 米子商工会議所 3F 会議室
- 3 出席者 米子商工会議所：高橋庶業部会長 他13名  
教育委員会：中永教育長、林次長、山口参事監兼高等学校課長、上山教育企画室長、松田家庭・地域教育課長、徳田特別支援教育室長、井田西部教育局長、佐々木妻木晩田遺跡事務所長、川上主幹
- 4 概 要 (主な意見等 ○：米子商工会議所、●：県教委 )

○ 高校進学率は97%だが、これは低下しているのか、あるいは変わっていないか？再編成にむけ、少子化で私学の経営は難しくなっていくなかで、公私のバランスとれるようによく議論してもらわなければならない。

● 子どもの数が減っている中で、24年までは学級減により対応することとしているが、24年度以降、子どもの減にどう対応するのかとか、公私の比率の問題もあり、また普通学科と職業学科の割合をどうするかなどいろいろ問題がある。教育委員会としては、今後審議会に諮って24年度以降どういうあり方がよいのか検討していきたいと考えているところ。

○ 県立高校の生徒は一生懸命勉強してきているはずなのにあいさつができていない。日本の戦後教育制度は、知識を教えること、知識の偏差値ばかりを重視し心の偏差値をないがしろにしてきたということではないか。

2点目、観光客が米子駅に降りて「珠子内親王が祀られている安養寺にいきたい」と、通りがかりの米子市民に聞いたら「あげなつまらんところには行きなはんな。」といったという笑い話のような本当の話がある。初等中等教育で郷土の歴史だとか地誌を教えてないからではないかと思う。まず家庭愛ありき、そして隣人愛があり郷土愛がある。その延長上にいい意味での愛国心があり地球愛につながるのだと思っている。安倍総理は「美しい国」といい経団連の御手洗さんは「希望の国」というているが、これはあくまで地域の集成である。その地域に育った人が地域のことを知らないということでは教育の現場はどの程度その要請に応えているのかということ。初等中等教育で、教育の現場で郷土の地誌・郷土の歴史をしっかりと教えてもらいたい。

3点目、妻木晩田遺跡について。近くには青谷上寺地も加茂岩倉遺跡もあり、大山や大山寺を含めたネットワークで考えていかないといけない。教育委員会の問題というものではないかもしれないが。

● 知だけでなく徳(人間性)は大事。人間性を大事にするということで心とからだいきいきキャンペーンとかやっているところ。

学校にも、是非生の声を伝えていただきたい。そのことによって学校も気づき、きちんとしていくことができるようになると思うので是非お願いしたい。

- 松江は小学区制で人材配分がうまくできているのでは。鳥取県も学区制と普通科の見直しをされたらどうかと思う。
- もっと教育県になってほしい。教育県とは県民全体、行政も教育に熱心な県であってほしい。県民が皆で教育に取り組んでいくような県民教育大会を開くとか考えるべき。

日本全国同じ教育をするのも大事だが鳥取県の次代を担う人材を育ててほしい。そのためにはこの地域の歴史は最低知っていてほしいし、そういう授業をしてほしい。地域のことをよく知ることによって誇りも生まれるし、そうでなければ人材は育たない。

最後にもう1点、先生が地域活動、社会活動に参加されることが減ったように思う。特に地域の伝統、伝承、学術など文化的なものに取り組まれる先生が減っていると感じる。これがなくなったのは地域にとっても損失。そういう意欲のある先生の活動を組織として支援するような取り組みをお願いしたい。

- 総合的な学習の時間を中心として取り組んでいるが、基礎学力、読解力、思考力、表現力に力を入れる必要があり、小学校で言えば国語や算数に傾斜してなかなか時間がとれないということもある。どんなことができるのか担当とも相談しながら考えてみたい。
- 基本的な生活習慣の確立は大事。初等中等教育でしっかり基本的な生活習慣を確立し、その上で基礎学力をきちんとやる。そのためには挨拶は大事であるし、教員がサラリーマンではいけない。教員自身が意識を変えて頂きたい。
- 大学に入ったあときちんと大学に行っているのか、引きこもりはないのか心配、追跡調査はできないか。また、今の小学生は学習塾とかスポ少とか、自由な時間が少なくなっている。特にスポ少などでは小学生から始めると土日、祝祭日もなく、中学・高校とずっと部活動ばかりになり、家族とのつながりも無くなっている状況がある。また、部活ばかりになり、語彙力がついてないなどの問題もある。小学生にはもう少しそういう時間を減らして自由な時間があるべきではないか。

子どもにとって何が良いのか、いきいきと生きるためにはなにが良いのか、どういう子どもがうまく育っているのか調査してみてもらいたい。

何をやりたいのかわからなくなって、うろうろしている子のほうが多いのではないかと思う。そう言う意味では職場体験はすごく良かったように思う。いろんな大人と話ができて、違う世代と話をするというのはとても良いこと。もちろん読書も大事なのだがそういうようなことについて追跡調査がしてみたい。

- 入試の内申点が絶対評価になったなったわけだが、内申点の中学校間格差について、その是正の方法についてどのようにとらえているか。学校間、先生間でも違ってきているのではないか。それぞれ説明責任はあるはずなのできちんと説明して頂くようにしてほしい。
- 内申点の中学校間格差については、無いとはいえないが、突出して困った状況にあるともいえないところ。

## 鳥取商工会議所青年部との意見交換会の概要について

教育総務課

- 1 日時 平成19年5月25日(金) 午後2時～午後4時
  - 2 場所 教育委員会
  - 3 出席者 鳥取商工会議所青年部：赤山会長 他3名  
教育委員会：中永教育長、福井教育次長、林次長、高等学校課依藤係長、  
上山教育企画室長、山宮家庭・地域教育課指導主事、徳田特別支援教育室  
長、川上主幹
  - 4 概要(主な意見等 ○：鳥取商工会議所青年部、●：県教委)
- いきいきキャンペーンのことも、家庭教育推進協力企業制度についても知らなかった。ここにきて初めて知ったのでPRをもっと力を入れて頂いたら良いのかなと思う。  
商工会議所青年部としても理事会等にはからないといけないので今やりますとは言えないが、例会などにおいていただきお話し頂くことも考えたい。
  - いきいきキャンペーンのロゴマークもお手元にあるとおりが、自由に使って頂いて良い。まだまだ認知されていないので是非PRにもご協力いただきたい。
  - 高校を卒業し、県内に就職した子の離職率が高いので、これを何とか食い止めたい。  
中学校では「わくわく鳥取」で職場体験をしている。中学校から受け入れの協力依頼があったら是非ご協力をお願いしたい。
  - 一度受け入れたことがあるが、受け入れる方にもカリキュラムをどう組み立てるか、相当の準備が必要だと感じた。来てもらうよりは、何人か出かけて行って実務を見てもらう方がよい業種もあるのかなと思う。  
仕事がある程度標準化、システム化されているところでないと難しいように思う。
  - 高校を決めるときに、将来自分が何になりたいかを決める…ということがあるようだが、自分がやったことや親の職業だけの狭い範囲で決めるのではなく、幅広く見て決めることができるような仕組みがある方がよい。
  - クラブ活動や部活動で協賛広告を頼まれることが多い。そういう時でもどんなことをやっているかを見るよい機会になると思う。そういうやり方もありでは。
  - 協力してもらう企業についてはその業種をできるだけ幅広くすべき。そうすることにより生徒の選択肢も広がり企業も協力しやすくなる。
  - キャリア教育については、やはり中学校の段階でも受入に協力していただける企業が少ないということが一番のネックになっているので是非協力をお願いしたい。
  - 高校の卒業生たちを採用していただいているわけだが、子どもたちにどんな力を一番つけないといけないと思っておられるか？企業の方からは厳しい声も聞くが。
  - すぐ休んだり、我慢できない。30歳超えてもそのクラスの子はいる。3年が正念場かなと思う。何のために就職しているかという意識がない。中卒から大卒まで同じ傾向がある。

- 職業によって汚いとか、きついということで敬遠していくということはある。好きであれば続けし覚えるのも早い。かっこいいとか、キレイとか、楽に稼げるという理想を持っていて、マッチしないと簡単にやめて転々とし、結局フリーターのようになっていくのが、学歴を問わず今一番多いと思う。
- 我慢する力、忍耐力が大事か。
- 裕福で、子どもを甘やかすという世の中になってきている。給食もこれは食べられないという、簡単にいいよ…ということになっているのではないか。家庭でも嫌なことでもやりなさい、ということがなくなっている。その辺で我慢ができない。
- どのような職業でも、辞めるときには人に惜しまれるような働き方をすることに働く意義がある。職業が良い悪いではなく、職業に対する取り組み方、誇りを持って働くということが大事。そういうことに子どもたちは気づいてないのではないか。そういうことを教えるのも大人の仕事ではないか。
- 言葉で教えるのではなく、実際に働いている人を見た時に、実体験として感じることをできると一番よいのかもしれない。
- そういうことを感じるようになるためには、小さな時からの家庭や地域で体験することが必要と思うができてない。
- すぐに危険だから、とか理由をつけてすごく過保護になっている。我慢する力は、家庭教育の中でしっかりやりながら学校教育でも…ということではないか。
- 働くまでに、学校で力をつけておかないといけないものは何が大事だと考えるか？
- 採用するに当たって前歴を聞くと、やめた理由はほとんどが人間関係。先ほどの我慢する力にもつながると思うが、大きな会社ならまだしも小さな会社だと同期配の同期どころか、一番近い年代の先輩が一回り上ということもある。そういう中で柔軟性があって対応できる子はかわいがられるが、対応できないと人間関係に悩むことになる。職場環境にどれだけ適応できるか、そういう力を身につけていることが必要だし大事。
- 障害児の就業のためには、採用する側が障害がどういうものかということを知るのが、一歩目として大事。
- 少子化を逆にとり、少人数でよい教育による人材育成を考えてはどうか。
- 少人数学級はやっているがコストがかかる。またそうして育てた子が都会に出て税金は都会で納めるようになる。何とかしなければという思いがある。
- 一度は県外の経験はしたほうがよいと思うが、何年かしたら帰ってくる、鳥取の良さに気づいて帰ってくるということは必要。
- そのためには受け皿が必要。
- 子どもの数が減るから単純に統合では、ますます地域とのつながりがなくなる。学校は維持しつつ、有効な活用・連携を図っていくべき。
- 東京の教育とは違う、良い教育をしてもらいたい。それが選択する際の指標になる。鳥取に帰りたくなるような教育をしてもらいたい。「ゆったり」というだけでなく、「しっかりした学力」も付けるように。
- 街づくり人づくりのために、これからどんどん連携していきたい。これからは自分たちの町は自分たちでつくっていく、そういう風に考える人をつくる教育が必要。